

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600479
法人名	有限会社みらい館
事業所名	グループホームくれない
所在地	愛媛県西条市樋之口380-1
自己評価作成日	平成22年1月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームのモットー「心こそ大切」「1人の人を大切に」を常に心にとめ家族の様に接することができるよう日々努力しています。利用者1人1人の思いを把握する事やその思いを大切に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者がご家族宛てに年賀状等、季節のお便りを書くサポートをされている。ご家族からは「感動して、宝物になった」との感想をいただいた。以前からの行きつけの美容室に、職員が同行して出かけておられる方もある。又「ご自宅で飼っている犬に会いたい」「実家に帰りたい」とご希望される方にも、その都度、職員が車で一緒に出かけるようにされている。

現在、終末期を迎えておられる利用者は、長年かかっている主治医が最期まで診てくださるようになっていた。往診にも来てくださっており「部屋にテレビを置いてはどうか」というアドバイスをいただき、ご本人は、好きなテレビ番組を見ることで楽しみごとが増えたようである。又、食べたいと言われる食べ物等も、医師やご家族と相談しながら食べられるような支援に努めておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム くれない

(ユニット名) お福

記入者(管理者)
氏名 井上 静

評価完了日 平成22年 1月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域や家族とのつながりを大切にしながら、それぞれの入所者さんが日々喜びを感じ、生き生きと生活できる場所となるように、管理者と職員は日々の介護の中で実践している。	
			(外部評価) 事業所では、開設時に4項目の基本理念を作成されている。理念のひとつに「笑顔のたえない楽しい日々を送れるように支援します」と挙げ、法人代表や管理者は、日々職員に語り、利用者個々喜びがあるような暮らしを支えておられる。理念は玄関に掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 西条祭りの時にホームの駐車場を休憩所として提供するなど自治会の活動への協力、近くの学校の職業体験の学生を受け入れるなど地域の一員としての役割を果たしている。	
			(外部評価) 年1回、保育園児の訪問があり、利用者と一緒に遊び、帰りには子ども達と握手したり頭を撫でてあげる利用者もあった。事業所周辺は、新興住宅地でもあり、自治会行事等は少ないようで、事業所では地域とのお付き合いにむつかしさを感じておられるが、散歩中に声を掛けてくれたり、野菜を持って来てくださるようなご近所の方もいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域内で要介護者を抱える家族が気軽に相談に訪れられる場所となるよう努めている。また、認知症について理解を深められるような冊子を作成し、来訪者や地域の人々に配布する計画も進めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 家族や地域の人などサービス提供に関わる人々の意見を真摯に受けとめ、職員全員で話し合いながら問題点の改善や良い所を更に伸ばす努力につなげている。	
			(外部評価) ご家族や介護相談員、自治会長や地域の方にも参加していただき、2ヶ月に1回、会議を開催されている。又、10月の会議からは、利用者1名も参加されている。会議では、事業所の近況について報告されたり、外部評価結果を報告して、今後の取り組みについて具体的に説明されている。地域の方から「会に参加することで、介護に関心を持つようになった」と感想をいただいた。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 担当者とは協力して、より良いサービスが提供できるような信頼関係ができており、ホームの理念や活動について、よく理解してもらっている。	
			(外部評価) 介護相談員の訪問が2ヶ月に1回あり、利用者の暮らしについて気付いたことを伝えてくださっている。市の高齢介護課の方にアドバイスをいただき、「ぼくのおじいちゃんは冒険家」を活用して、事業所独自の冊子を作り、中学生の職場体験を受け入れる準備をされている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外に出ようとする入居者さんに対して、言葉かけや台所仕事などで気を紛らせたり、職員で意見を出し合っ工夫し、身体拘束を必要としない対応に努めている。	
			(外部評価) 車椅子に座るとご本人から「シートベルトをお願いします」と申し出のある方は「ご家族の強いご希望」等もあり、転倒防止のために安全ベルトをされている。事業所では、ずっと着用するのではなく、職員の目が届きにくい時に限って着用し、少しでも安全ベルト着用の時間が短くなるように努めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する書籍や新聞記事を元に職員同士話し合うなど、日頃から理解を深め虐待につながる言動がないよう互いに気をつけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要な知識として、ホームでの勉強会や自主学習をして、活用する機会に備えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約等の際には、利用者や家族が不安を感じることをないように十分な説明を行い、納得がいくまで話し合うようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者や職員は家族が何でも話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、定期的に書面によるアンケートを行い、家族側の意見や要望をサービスに活かせる取り組みをしている。	
			(外部評価) 季節ごとに、年4回「くれないだより」を発行し、ご家族へ手渡されている。ご家族によっては「利用者の写真を載せないで欲しい」と要望される方もあり、現在は、便りには写真を載せず、利用者個々にアルバムを作り、ご家族の来訪時に日々の様子を見ていただくようにされている。ご家族は、月1度は必ず事業所に訪れることになっており、その際、管理者が利用者の暮らしぶりを報告されている。好きな食べ物ことや利用者の呼び方等について「口頭でアンケート」を取り、利用者やご家族の意見や要望をお聞きすることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	頻繁に開くミーティングにおいて、活発な意見交換が行われている。また、ホーム長は普段の会話を通じても職員の考えを汲みとり、それをサービス向上に活かせるように努めている。	
			(外部評価)		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	休日や勤務時間など各職員の希望を取り入れ、全員が納得し、やりがいを持って能力を発揮できる勤務体制が整っている。	
			(外部評価)		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	様々な研修の機会を設け、各職員も積極的に参加している。各種資格取得も奨励、推進している。	
			(外部評価)		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	他の施設からの紹介で入所やショートステイする利用者も多く、良好なネットワークづくりができています。勉強会等への参加を通じて同業者と親睦を深める職員もいます。	
			(外部評価)		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	サービス開始前の利用者側の不安な気持ちを理解し、安心してサービスを受けられるよう十分な話し合いをし、信頼関係を築いている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談を重ね本人の状態や家族の状況を把握し、現状において最適なサービスを受けられるよう支援しており、事業所本位ではなく、利用者の立場に立った対応に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) "家族のような関係"を築く事を目指し、「～してあげる」のではなく「一緒に～する」という感覚を大切にケアを心がけている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は本当の家族のような気持ちで利用者に接する事で家族側の心情も理解し、家族と共同して本人を支えてゆく気持ちで日々の介護に取り組んでいる。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 遠くに住む家族や友人に電話をかけたり手紙を書くのを手伝ったり、また、面会者が訪問しやすい雰囲気づくりを心がけている。 (外部評価) 職員は、利用者のご家族宛てに年賀状等、季節のお便りを書くサポートをされている。ご家族からは「感動して、宝物になった」との感想をいただいた。以前からの行きつけの美容室に、職員が同行して出かけておられる方もある。又「ご自宅で飼っている犬に会いたい」「実家に帰りたい」とご希望される方にも、その都度、職員が車で一緒に出かけるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士の交流を深められるよう、職員がさりげなく間に入って会話を盛りあげたり、対立が起きないように配慮したりと、利用者同士の関係がよくなるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			退所後も家族が訪問してきて近況を知らせて下さるなどの交流があり、その際ホーム長が相談を受けたり、助言をしたりという事もある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			利用者一人ひとりとの普段の会話を大切にし、それぞれが、どのような希望を持っているのか気持ちを汲みとり、それを実現できるよう努めている。	
			(外部評価)	
			センター方式のアセスメント表を参考に、事業所独自のアセスメント表を作成して、利用者個々の現状や意向の把握に努めておられる。事業所では、聞き取った利用者個々の希望や思いをご家族にもお伝えし、共有して実現できるよう取り組まれている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			本人や家族との面談、関係機関との連携によって把握できている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			利用者それぞれの介護記録をつけ、または職員間での情報交換によって小さな変化も見落さず現状を把握できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族をはじめ関係者の意見を取り入れ、本人の事を第一に考えた介護計画を作成している。状態の変化に即応し、現状で最適と思われるケアがなされるよう必要に応じて計画の見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 入居後1ヶ月ほどの間に、利用者ご本人について「何がその人にとって必要か」「どういう生活を望まれているか」等をご家族等にもお聞きしながら探り、介護計画を作成されている。その後は、計画は、3ヶ月毎に見直しをされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録を用いて職員同士がケアプランの見直しを話し合うなど、ケアの向上に活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族が多忙で時間が取れない場合、代わりに病院や本人の行きたい場所に連れて行ったりと、家族や本人のニーズにできる限り応えるようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者が安心して暮らせるよう地域の人々や行政などの協力を得られる働きかけをしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人を長年担当している、かかりつけ医や行きつけの病 院と連携し、本人と家族が安心して医療を受けられるよ うな体制をとっている。	
			(外部評価) それぞれのかかりつけ医への定期受診は、基本的にご 家族が付き添われている。市の決まりもあり、土・日 曜日や夜間の緊急時は、職員も同行して市内の当番医 に診てもらおうようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 身体機能・認知機能の低下、体調不良など小さな気づき も、まず看護職員に報告・相談し適切な受診につなげら れる体制ができています。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 重要な事柄は文書にして病院に提供するなど情報の共 有に努めている。病院側も早期退院に尽力してくれ信頼 できる協力関係にある。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームでのターミナルケアを提案し、利用者本人や家族 の望む形で終末期を迎えられる支援をすることを約束 している。	
			(外部評価) 現在、終末期を迎えておられる利用者は、長年かかっ ている主治医が最期まで診てくださるようになっている 。往診にも来てくださっており「部屋にテレビを置 いてはどうか」というアドバイスをいただき、ご本人 は、お好きなテレビ番組を見ることで楽しみごとが増 えたようである。又、食べたいと言われる食べ物等 も、医師やご家族と相談しながら食べられるような支 援に努めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の講習会やホームでの訓練を通じて、何かあった時にはすぐに適切な対応ができるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力の元、定期的に訓練を行い全職員が参加している。また、地域の人々には災害時に優先して援助すべき存在として認識されており、協力関係ができています。 (外部評価) 避難訓練は、年2回行われており、一度は消防署の協力を得て実施されている。管理者をはじめ、事業所近隣に在住する職員が多いため、災害時等、いざという時、ご家族にも口頭で協力をお願いされているが「まず職員が駆け付ける」ことになっている。スプリンクラーも設置されていた。	代表者は、地域の防災士の認定を受けておられ、地域の方から地域の緊急時等への協力を依頼されている。地域の方達との関係作りをすすめ、事業所内の様子を知ってもらったり、事業所の避難訓練に参加していただく等、近隣の方達との協力体制等も作っていかれてほしい。利用者・職員の安全、安心に向けてのさらなる取り組みが期待される。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 家族のように馴染んだ関係の中にも、礼儀をわきまえた言葉かけや対応ができています。 (外部評価) 職員は、利用者によって「家族のような呼び方」「昔からの呼び方」で呼んでおられる方もあり、利用者によって「ちゃん」「ばあちゃん、じいちゃん」と呼んでいるような場面も見受けられた。事業所では、今後も利用者一人ひとりを「家族の一員」として接していきたいと話しておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の何気ない会話から本人の希望を推し量ったり、自己決定が困難な人には選択肢を示すなど、職員が工夫して働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝食の時間でも「まだ起きたくない」という人には時間をずらして食事をとってもらうなど、利用者の気持ちを優先し、それぞれの生活リズムに合わせて、日々を過ごしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装や髪形などは本人や家族の希望通りのものにしていく。昔から愛用してきた服を身に着けたり、行きつけの美容院を利用したり、入所前と変わらない身なりでいられるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に考える献立づくりや、できる人には準備や片付けも協力してもらい、一緒に作って食べる楽しみを感じてもらっている。時には外食やテイクアウト食品など、変化に富んだ食事を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 魚屋さんの新鮮な魚や地元で採れた旬の野菜を多く使って食事作りをされている。利用者は、野菜の下ごしらえを職員と一緒にされることもある。調査訪問時は、机を拭いたり、ご自分のお膳や隣の方のお膳を下げる様子もうかがえた。利用者は、「お寿司・エビフライ・ハンバーガー」等がお好きなメニューのナンバー3ということで、お寿司を食べに出かけられたり、ファストフードのハンバーガー等もメニューに採り入れておられるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体格や持病に応じて、バランスのとれた食事を提供している。水分補給を重視し、お茶を飲みたがらない人には食事に汁物を付けて、さりげなく水分がとれるような工夫もしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後欠かさず歯磨きを声かけし、職員も一緒に行うようにしている。自力でするのが困難な人には、職員が介助して歯磨きや入れ歯の洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄表の活用や各職員の観察から、だいたいのパターンをつかみ、さりげなくトイレ誘導することで排泄の自立、失禁予防に努めている。	
			(外部評価)	
			排泄チェック表を付けてパターンの把握に努め、職員の誘導等で利用者個々がトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			十分な水分補給、芋類・豆類を多用した献立の作成、また、テレビ体操やホーム内の廊下を歩くなどの軽い運動を促す等の取り組みをしている。	
			(外部評価)	
			それぞれの体調や好みに合わせた入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否が激しかった人も、職員が誘導時の声かけや入浴中の会話を工夫し、楽しいものにすることで、拒否が少なくなった例もある。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			毎日、午後が入浴時間となっており、利用者は、週3回入浴できるよう支援されている。脱衣所には、カーテンで仕切りトイレを設けておられ、「服を脱いでからでもトイレに行ける」ようになっている。	
			(外部評価)	
			室内の明るさや就寝時の服装などは本人の好みや習慣に合わせて、使い慣れた寝具を使用することで自宅にいるのと変わらない気持ちで眠りにつくことができている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の注意書きをよく読み、熟知している。薬の量や種類の増減があれば各職員に回覧で伝達し、注意を促すようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 民謡が得意な人に皆の前で披露してもらったり、マッサージが上手な人が他入居者さんの肩もみをしてあげたりと持つ力を発揮し、またそれを評価されたり感謝されたりすることで、喜びや生きがいを感じられている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物など日常的に外出する機会を持ち、季節ごとの行事(花見・西条祭り)の見物を楽しんだり、定期的に家族との外食を楽しまれる人もいる。	
			(外部評価) 2日に一度、食材の買出しに出かけ、歩行できる利用者と職員と一緒にスーパーに出かけて、カートを押し、食材を吟味して買い物をされている。代表者所有の畑に皆で出かけて、果物や野菜を収穫されることもある。スーパーの軽食コーナーや喫茶店でおやつを楽しまれることもある。	外出支援について、ご本人の懐かしい場所や行ってみたい場所を探り出かけてみたり、ご家族等にも、外出支援について具体的な要望をお聞きしてみるような機会を作ってみてはどうだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は本人や家族と相談し、それぞれの状態に合わせた対処をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 先方に不都合な事がない限り、本人の希望に沿えるよう支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>調光、温度、TVの音量などには職員が常に気を配り適度に保たれている。様々な場所に季節の花や手作りの小物を飾り、家庭的で温もりのある心地よい空間づくりに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>夜間、寝付きにくい利用者は、居間のたたみの間に布団を敷いて職員のいるところで寝られることもある。1階には、カラオケの設備があり、お好きな方は楽しまれている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングでは椅子席のほか、ゆったりと腰かけられるソファや足を伸ばしてくつろいだり横になって休息できるタタミコーナーもあり、利用者が気の向いた場所で過ごせるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家具や身の回り品などは本人が慣れ親しんだ物を持ち込んでもらい、使い易い配置にしている。洋室であるが、日本風にこだわる人には、床に畳を敷き和洋室のようにするなど、本人の好みに対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お部屋に畳を敷きテーブルを置いておられたり、籐の椅子を置かれている方があった。壁に、保育園児からプレゼントされた絵や西条祭りのポスターを貼っておられる居室も見られた。居室で小物作りを楽しまれる利用者は、枕元に材料を置いておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレや手洗い場を分かりやすく図で表示したり、夜間の転倒防止のためセンサー付きの足元灯を設置したり、安全に配慮した上で自立に向けた環境づくりをしている。</p>	